

# マガレイ (沖まこ, あかじまこ)



## 生態的特徴等

【生態】瀬戸内海・若狭湾以北の日本沿岸に分布する。茨城沖に生息するのは仙台湾～鹿島灘の系群と考えられ、主分布域は仙台湾である。分布水深は75～150m。マコガレイとよく似るが、無眼側の尾びれのあたりに黄色みを帯びているところから区別でき、分布水深もより沖側である。主に多毛類を食べる。成長は1歳で全長15cm、雄はそれ以降成長が鈍くなり、全長20cmを超えるとほとんど成長しない。雌は2歳で全長22cm、3歳で全長27cm、4歳で全長32cmになる(図1)。寿命は10歳。2歳でほぼ成熟し、産卵期は2～5月。

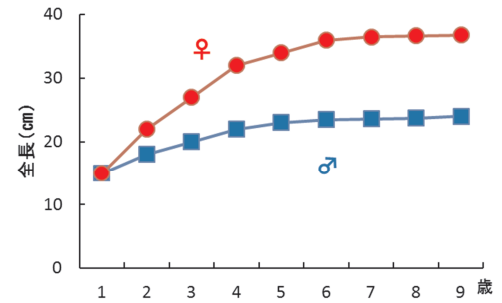


図1 マガレイの成長

【漁法と盛漁期】主に底曳網で漁期(9月～6月)をとおして周年漁獲され、平潟、那珂湊漁港での水揚げが多い。

【利用】焼き物や煮魚として食される。茨城県では鮮魚での流通が主。

## 新規加入少なく資源は中位・減少

(漁獲量) 漁獲量の変動が大きい魚種で、H16～18は20ト前後の漁獲があったが、それ以外の年は1～11トで推移している(図2)。

(加入量) 近年では、新規群の良好な加入が確認されておらず、漁獲量が減少傾向となっている。

(水準と動向) 水準は、過去の小底のCPUE(kg/隻・日)の推移(図3)から「中位」、動向は、直近5年間のCPUEの傾向から「減少」とした。

水準



動向

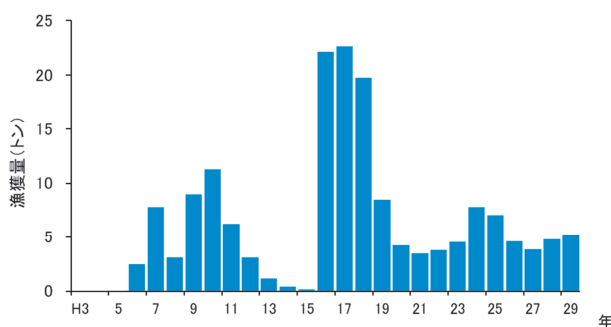


図2 マガレイの漁獲量(水試システム 属地集計)

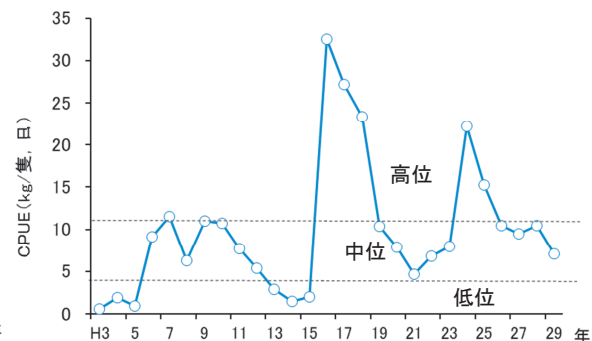


図3 マガレイのCPUE(小型底びき網)

## 【全国の漁獲動向】

- ・茨城県以外の主な産地は、宮城県、福島県や北海道など。

評価期間：平成29年1～12月      更新日：平成30年11月1日